

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103177
法人名	株式会社モロコケア
事業所名	グループホームじゃんけんぽん
所在地	愛媛県松山市古川北3丁目12番29号
自己評価作成日	平成24年7月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様が入所前と同じような生活が送れるように、配慮している。  
利用者様の目線に合わせて対応している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年9月10日

●週に2回懐メロ等を歌う「歌会」時は、職員がハーモニカを吹き、利用者が歌う等して楽しい時間となっている。居室に籠もりがちだった利用者が、「歌会」に参加するようになってから、楽しく皆と交流できるようになったケースがある。文通をされている利用者には、職員が手紙をポストに入れる等、支援をされている。利用者が外泊される際には、ご自宅で安心して過ごせるよう、ご家族に日頃の様子や服薬、体調管理等について伝えておられる。ご自宅の近所の方が訪ねて来られた時には、職員は、お茶をお出しする等して、ゆっくり過ごせるよう気遣いされている。遠来のご家族には、居室や併設のデイサービスの静養室で泊まってもらったこともある。  
●ご自身で洗濯して干した洗濯物が、十分に汚れが取れていない場合には、そつと職員が洗い直して元のように干しておられる。利用者によっては、毎朝「はじめまして」の挨拶で始まる方もおられ、職員も、「はじめまして」と挨拶して、利用者の気持ちに配慮されている。

### V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームじゃんけんぽん

(ユニット名) グーユニット

記入者(管理者)

氏名 今村 タマキ

評価完了日 24 年 7 月 25 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「尊重と安らぎの家」になるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所開設時より、「ひとりひとりが尊重され、健康で安全と自由があり、互いに支え合いながら、明るく楽しく生活ができる安らぎの家」と理念を掲げ、居間に掲示されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	(自己評価) 地域の方とコミュニケーションをはかり、どなたでも出入りできるように門扉を開けている。	
			(外部評価) 事業所で利用者が歌を楽しむ「歌会」に、近所の方が参加して楽器演奏をしてくださったり、又、避難訓練にも協力してくださっている。事業所で作ったお寿司を時にはおすそ分けしたり、又、スイカを分けてくださったこともある。回覧板から情報を得て、年に1回開催される地域の「ふれあい市」に出かけ、買い物をして楽しまれている。昨年、中学生の「職場体験」を受け入れておられる。地域の傾聴ボランティアの方が、2週間毎に来られ、利用者のお話を聞いてくださることは、個々にとって「心の安らぎ」となっているようだ。地域の他グループホームとは運営推進会議に参加し合い、情報交換したり、行事にも相互に利用者に参加する等、お互いのサービスの質の向上に取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 利用者と地域の方はあまり交流がないので、認知症を理解してもらってないと思う。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議にはスタッフや家族が参加して、意見交換しその後それらについて話し合っている。	
			(外部評価) 会議には、利用者・ご家族・町内会副会長・児童センターの職員・他事業所の職員の方等が出席されて、意見交換がなされている。ご家族は、順番で出席して下さるようになっていく。保健センターから講師を招いて「感染症」について学んだり、社会福祉士の方に「成年後見制度」についてお話していただいたこともある。保健センターの方に「転ばないための体づくり」の講義と体操をしていただいた際には、地域の方が9名出席され、好評だったようだ。事業所では「今後も、勉強会を採り入れる等、地域の方に参加していただきやすいような会議にしていきたい」と考えておられた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護支援専門員などが取り組んでいる。	
			(外部評価) 運営推進会議時、災害対策について話し合った際の市の担当者の方からの助言もあって、居室の家具を利用者の頭部から離すよう移動された。昨年の2月の運営推進会議時には、地域包括支援センターの協力を得て「認知症サポーター養成講座」を開催され、地域の方も多数出席された。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については月1回話し合いを行っている。	
			(外部評価) 事業所の玄関は、日中は施錠せずセンサーが設置されており、出入りの際には音が鳴るようになっている。毎月、身体拘束について職員で話し合う機会を作っておられ、ケアマネジャーは「職員の意識も徐々に向上してきている」と感じておられる。「帰りたい」気持ちの強い利用者には、職員がさりげなくお茶をすすめてゆっくりお話をされたり、時にはドライブに誘う等されている。事業所は2階建てとなっており、職員の知らない間に利用者が下の階に降りていたようなこともあって、しばらくの間、2階エレベーターの入り口には「点検中」の張り紙をして対処されたようだ。現在、ご家族から「安全が第一」との要望もあり、ベッド柵を付けている方がいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	介護上での力加減や言葉遣いなどいろいろな面でのいき過ぎはないか注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	推進会議で講師をよび勉強はしたが、活用する場面はなかなか判断が難しい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	介護支援専門員などが行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	面会された家族の話の内容は職員間で話し合っ、意見を反映できるようにしている。	
			(外部評価)	家族会を、年に1回、納涼祭と兼ねて開催されており、8割以上のご家族が出席され、親睦を図っておられる。職員の写真と名前はユニットの入り口に掲示されており、職員の異動については毎月の手紙でお知らせしている。一昨年、昨年と、事業所独自で家族アンケートを実施して、ケアや看取り、接遇等について、ご家族の意見や要望を調査された。今後さらに、ご家族からの率直な意見や要望をサービスに採り入れて、利用者、ご家族の満足度の高いサービス提供に努めていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月1回のリーダー会で相談したり、意見を述べている。	
			(外部評価)	
			今回の自己評価は、各ユニット毎に実施され、職員が数項目ずつ担当して作成し、ユニットリーダーがまとめて代表者(管理者)とケアマネジャーが確認をされた。事業所では、外出支援について課題を明確にされていた。職員の意見や要望は、各ユニットリーダーが、「リーダー会」に挙げるようになっており、毎月行われるリーダー会は、法人代表者、ケアマネジャー、看護師も出席して開かれている。話し合われた内容は、それぞれのユニット会時に職員に周知されている。	事業所の理念や方針のもと、現場職員の提案やアイデア・意見等を聞く場を積極的に作り、十分に採り入れた運営が期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			環境整備は十分でないところもあると思う。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			勤務経験に合わせて、職員が随時研修に参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			お互いの会議に参加したりして情報交換している。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			受け止めることを増やせるように努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 地域、家族が集まる会を定期的に行っており、求められるものがあれば聞き入れている。面会時は家族との話しを積極的に行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談は受け入れ、そのとき時に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔話を聞かせていただいたり、レクリエーションを一緒にしたり、交流を深めながら、お互いに信頼関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 関係構築のため努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 手紙や電話、面会などの支援をしている。	
			(外部評価) 週に2回懐メロ等を歌う「歌会」時は、職員がハーモニカを吹き、利用者が歌う等して楽しい時間となっている。居室に籠もりがちだった利用者が、「歌会」に参加するようになってから、楽しく皆と交流できるようになったケースがある。文通をされている利用者には、職員が手紙をポストに入れる等、支援をされている。利用者が外泊される際には、ご自宅で安心して過ごせるよう、ご家族に日頃の様子や服薬、体調管理等について伝えておられる。ご自宅の近所の方が訪ねて来られた時には、職員は、お茶をお出しする等して、ゆっくり過ごせるよう気遣いされている。遠来のご家族には、居室や併設のデイサービスの静養室で泊まってもらったこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士のつながりを強化するため、職員が橋渡しをしたりと努力はしているが、時に困難な時もある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 出来ている場合と、そうでない場合がある。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 希望や意向に耳を傾けているが、十分対応しきれていないところもある。  (外部評価) 入居時に、ご家族やご本人から得た生活歴や趣味等の情報はフェイスシートに記載されている。日々のかかわりの中で得た情報は、申し送りノートや介護記録に記入し、共有されている。事業所では、昼食後に困らんとする時間を作っておられ、利用者の気持ちを知る機会とされている。職員は、利用者とのコミュニケーションをとることで、「利用者には遠慮なくわがままを言ってもらえる関係でいたい」と話しておられた。	利用者の性格や状態等、ご自分の意思を表しにくい方についても、職員のかかわり方を工夫して暮らし方の希望や思いを引き出せるよう取り組まれてほしい。今後さらに、利用者個々の「これまで、現状、これからのこと」について知ることができるよう、アセスメント等も工夫されてはどうだろうか。個々から汲み取った思いや意向についての情報を介護計画に採り入れ、より個別で細やかな支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントの内容の伝達により生活環境などについて把握している。入所後も随時本人や家族に聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケアプランに沿って一人ひとりの状態を把握するように努めている。日々の日誌内容も把握している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ミーティングで課題となっている問題点の解決法を考え、ケア計画を立てている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、3ヶ月～6ヶ月ごとに見直されている。介護計画に沿ったケアが実施されているか分かるよう、「ケア行動計画チェック表」を作成し、毎日○×でモニタリングを行っておられる。ケアマネジャーは、今後、「介護記録に、利用者の行動や言葉をもっと具体的に書き、その背景や理由も記入できるように徹底し、介護計画の見直しに活かしたい」と話しておられた。今後さらに、利用者が持っている力を活かして、その人らしい暮らしが継続できるよう、介護計画の内容についても工夫されてみてはどうだろうか。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一日一日の行動、言動、出来事を「日誌」に記入し、申し送りの際必ず報告する。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>併設のデイサービスのレクリエーションに参加したり、ボランティアの活用をしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりに合ったケアを行い、利用者様の生活ペースを保てるようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 通院や往診時に指示を頂く。	
			(外部評価) 現在は、数名の利用者を除いて、事業所の協力医療機関の医師がかかりつけ医となっている。月に1度、協力医が往診に来られている。受診時は、ご家族か職員が付き添い支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 体調の変化などがあれば相談、報告し、適切な指示で行動する。	
			(外部評価) 看護師や介護支援専門員が行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 看護師や介護支援専門員が行っている。	
			(外部評価) 主治医、看護師などが家族に説明し、納得された上でケアにあたっている。その状況、状態をスタッフ全員が理解している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時、ご家族やご本人に、「重度化して医療行為が必要となった場合には、他施設や病院に移っていただくようになる」ことや、事業所でできる「看取り介護」について説明されている。現在、「延命治療を望まず、事業所で最期を迎えたい」と希望するご家族は25名、病院を希望する方は2名おられる。現在、終末期を迎えておられる利用者が1名あり、職員は、居室に頻繁にうかがってスキンシップを図ったり、好きな食べ物をゼリー状にして飲み込みやすい工夫する等の支援に努めておられる。利用者の中には、職員の手を握って臨終を迎えた方もいる。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックをし変化があれば看護師や医師に相談連絡し、指示を仰いでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は年2回行っている。当日休みのスタッフも参加するようにしている。近所の方も参加してくれている。	
			(外部評価) 避難訓練は、1年間に、消防署の指導の下で1回、事業所独自で1回実施されている。訓練時には、近所の方が1名参加してくださり、利用者の避難誘導と見守りに協力してくださった。事業所の建物は耐震性に優れた造りで、地震災害時には事業所を避難場所として提供できる旨を、運営推進会議で伝えておられる。職員は緊急時に備え、消防署の指導により、心配蘇生法やAEDの使い方を学ばれた。今後は、地域の防災訓練に参加できるよう、町内会副会長に申し出ておられる。非常時の備蓄については、3日分の食糧やオムツ等は用意されているが、水についてはまだ不十分だと感じておられる。又、地震想定訓練は、今後の取り組みとなっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室へ入るときには、ノック、声かけを必ずしている。	
			(外部評価) ケアマネジャーは、「接遇の外部研修等の成果もあり、言葉かけ一つで利用者が変わることや、常に利用者の立場に立つことの大切さを職員が意識して、言葉かけや対応ができるようになった」と感じておられる。又、ケアマネジャーは、その都度、気になる声かけや対応には注意を促し、指導するようにされている。ご自身で洗濯して干した洗濯物が、十分に汚れが取れていない場合には、そっと職員が洗い直して元のように干しておられる。利用者によっては、毎朝「はじめまして」の挨拶で始まる方もおられ、職員も、「はじめまして」と挨拶して、利用者の気持ちに配慮されている。昼食後、他の利用者におすすめられて、教育勸語の暗誦をされた利用者にも、みんなが拍手されている様子が見えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話を求めている時には耳を傾けている。他の利用者に聞かれない時は、場所を変えて話しをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)  居室で自由にテレビ観賞や楽器演奏をしてもらっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)  化粧やアクセサリーなど身に付けて、おしゃれを楽しめる支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)  食事中はBGMを流し、職員と利用者全員で食卓を囲んでいる。食事介助及び片付けは、一人ひとりの残存能力を活用し行っている。  (外部評価) 事業所では、食事支援を大切に捉えておられ、時には代表者(管理者)が食材を全国からお取り寄せされることもある。献立は3ユニット共通となっており、食事作りは、ご飯と汁物は必ず各ユニットで作れ、おかずは品数や献立によっては、3ユニットで分担して調理されている。日頃の会話の中で、利用者のお好きな物をお聞きし、メニューに採り入れるようにされている。調査訪問時、利用者がモヤシのひげ取りをされる等、夕食の下ごしらえを行っておられたり、食器拭きを行っているユニットもみられた。職員は、味付けや野菜の切り方等について、利用者に教わることもあるようだ。職員も利用者と食卓を囲んで、会話を交わしながら同じ物を食べておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)  一人ひとりの活動量に合わせて、摂取量を調節している。摂取量が不足の方には、栄養剤などで対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)  食後の口腔ケアは「なるべく早く実行し、介助の必要とされる方は、自立支援を考慮して実行している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>出来る限りトイレで排泄できるように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>排泄チェック表を作成して、「そわそわする」等のしぐさにも気を配り、タイミングを逃さず声かけし、トイレ誘導されている。夜間もできるだけトイレで排泄できるよう支援しておられ、車椅子で居間まで出て来られて職員とともにトイレに行かれたり、足元の不安定な方は居室のコールを鳴らして、職員に付き添ってもらいながらトイレに行かれるようだ。調査訪問時、車椅子を使用する利用者が、「わたしが車椅子のギアを触り始めると、職員がすぐに気付いて、トイレですかと声をかけてくれ、連れて行ってくれる」と話してくださった。トイレで排泄できるように、立位運動を介護計画に採り入れているケースもあった。ケアマネジャーは、ご家族への毎月の費用請求時に、おむつ代がやや高めに感じるときは、「もう少しケアで対応できないか」と、職員と話し合われることもあるようだ。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>看護師の指示に従い、便秘薬などを服用している。水分や食事量の把握をし、体操をして自然排便ができるよう支援している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>曜日や時間帯は職員の都合で決めているが、入浴中はコミュニケーションを図りながら、楽しんでいただけるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>2日に1回、入浴できるよう支援されている。入浴時間は午前と午後となっている。午前中にお誘いしても気が進まないような利用者には、午後にもう一度声をかけておられる。車椅子を使用している方にも、職員が2人で介助して湯船で温まれるよう支援されている。ユニットによっては、冬場は湯船に入るが、夏場は暑さのため、利用者のほとんどがシャワー浴を希望されるようだ。職員は「毎日入りたい利用者や夜間に入りたい方もおられるので、今後さらに希望に添った入浴支援ができたらと思う」と話しておられた。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>夜間巡回時は、目を覚まさないよう、静かに戸を開閉している</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や用法、用量は医師、看護師の指示の下、服薬の支援を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 無理強いせず、その時に出来ることをしていただいている。おやつ時はテラスや、日の当たる廊下で摂っていただいたり、ダイルームでの歌会に参加されている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人では外出できる方がいなく、介助や見守りのいる方が多く、希望に応じてコンビニに買い物に行ったりしている。又、家族の方と一緒に買い物や散歩に行かされている。 (外部評価) 利用者が散歩や喫茶店に出かけられるよう、ご家族にも協力をお願いされている。日常の食材の買い物は職員がされるが、時には足りない食材を利用者と買い物に行かれることもある。今春は、近所の公園におやつを持ってお花見に行かれた。ケアマネジャーや職員は、さらに「利用者個々の希望に添った外出支援に取り組みたい」と話しておられた。	事業所が実施された家族アンケートでは、「もっと外出をさせてほしい」という要望があったようだ。今後さらに、利用者一人ひとりの意向を汲み取りながら、懐かしい場所や行きたい場所への外出支援に取り組んでいかれてほしい。又、外出支援は地域の人と関わりを持つ大切な機会でもあり、地域の人々とも協力しながら、利用者が外出を楽しめるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理の出来る方がほとんどおられない。施設の方で金銭管理をしている。中にはお金を本人より預かり、希望されたものを職員が買い物している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 友人や放送局への手紙など預かって出している。自分で電話が出来ない方は、職員が変わりにかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 各居室には温度計を置き、室温の調節をしている。トイレや洗面所に、利用者の目線に合わせ、目印を作り誘導している。</p> <p>(外部評価) 事業所の建物は、風の流れや採光に工夫を凝らして設計されており、調査訪問時には、風が通り抜け、自然の光がふんだんに差し込んでいた。事業所の玄関前や中庭には、手入れの行き届いた花や樹木が植えられ、利用者は四季を通じて豊かな緑を楽しまれているようだ。気候の良い時期には、屋上テラスにテーブルや椅子を並べて、ティータイムを楽しんでおられる。共用空間の随所に蘭の花や観葉植物が配置されており、壁には多くの絵画が飾られていた。職員が台所で調理中に、居間で過ごす利用者の様子がわかりやすいよう、シンク前の壁面に横長のミラーを取り付けたり、又、居間から続く廊下の様子が確認できるように、コーナーミラーを取り付けているユニットもあった。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 自室で昼寝やビデオを見たり、歌を聴いたり又、利用者同士でトランプ遊びや会話をしたりして過ごされている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 自分で作った人形や仏壇、タンスなど使い慣れたものを持って来られている。</p> <p>(外部評価) 畳の居室もあり、入り口に利用者の好みののれんを掛けている居室もある。窓にはすだれを掛けて、日差しの調節をされていた。ご家族がユニットの利用者全員に手作りして下さった、フォトフレームに写真を入れて、ドア横に掛けているユニットもあった。お位牌や仏壇や使い慣れたたんす、ソファやテレビ等を持ち込まれている方もいる。猫のお好きな方は、猫のぬいぐるみをたくさん置かれていた。ラジカセを置いて、好みの音楽やラジオを聞く方もおられる。ご自身で、居室の雑巾がけをされる方もある。利用者の希望により、夜間の水分補給のため、ペットボトルのお茶を用意されていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 車椅子の利用者様が多く、自走するのに邪魔にならず、且、安全に生活できるよう長椅子のみ置いている。</p>	